

早稲田大学 スポーツ科学部 小論文 解答例

筆者は以下のように述べている。社会の階層化、二極化、下流化の流れの中で、上昇意欲に満ちた表現に新鮮味が感じられることがある。人気漫画の「ドラゴン桜」が良い例で、社会にある不平等を、自由、個性、オンリーワンなどの言葉で隠す大人の欺瞞をあばき、子供たちに真実を知らしめ、だからこそ、あきらめずに努力しろと主張する。そして、当たり前前の生活態度が勉強の基礎にあるとも主張して、社会の下流化にパンチを浴びせるのである。

確かに、筆者の見解には納得できる点がある。「百ます計算」で有名になった陰山氏が「早寝、早起き、朝ごはん」という生活の基本を習慣づけたことが、学力を向上させた、と文中にあるが、これは、まともな社会人になるために最も大切なことは何かを示している。

現代の親は、親自身がそうした家庭における基本的な躰や価値観の教育を受けていない場合も多く、これが下流化に拍車をかける。また、社会の経済的な豊かさ、価値観の多様化、口当たりの良い言説だけを流し続けるマスメディア、民主主義に対する誤解より生じてくる権利意識の肥大化などの影響で、子供達の生活の基本も学力も悪化し続けているといえる。そして、特に問題なのは、上昇意欲を持たない、あるいは持てない子供が増えて

いることである。かつては一億総中流といわれた日本だが、近時の経済力の低下、グローバル化、少子化といった社会的背景の中で、階層化、二極化、下流化の進行をいかに止めていくかが問題となる。

まずは、家庭における堅実な生活態度こそが子供の未来をひらくという伝統的価値観を、親の世代、これから親になる世代、子供の世代に広く浸透させることが第一歩ではないだろうか。家庭のみならず、教育界も共有する価値観として定着していけば、社会の階層化、二極化、下流化の歯止めになると考える。そのうえで、学力の向上を目指す子供が増えれば、上昇意欲の復活につながり、社会全体の底上げが図られることになる。「堅実な家庭生活」の価値が高まれば、情報化社会の中で自ずとこの価値観は共有されるであろう。その方向へ向かうための知恵が絞られる時期に来ているのではないだろうか。

(句読点とも924字)